昭和30年6月23日 第三種郵便物認可
磐城日日
夕刊（除日曜） 才1356号

夕刊
磐城日日
発行所
磐城日日新聞社
福島県磐城市港廻51
電話387番
編集兼発行人 樫村清

泣いて馬しよくを切る
行政整理と工場誘致

磐城市は都市振興の重要なる要素をもつ工場誘致のため全力を注ぎその誘致推進を圖つて來た。

この爲財政的餘裕のない市に於ては起債の必要性が必然的な問題となつている。

去る二十一日東京都にて開催された全國市長會に出席した立花市長は、全國市長会都市振興委員（各縣より一名）として都市振興に関する工場誘致の起債の問題を取り上げ、磐城市の実情を同会に反映せしめ強力に自治廳及び関係官廳に働きかけて昨日歸廳した。

立花市長談

私は磐城市の爲に全力を擧げて都市振興に、そして磐城市の発展を念願している。

都市振興に欠くべからざる工場誘致の問題にしても、先づ起債にならなければならない。

そこで私は、工場敷地買收は起債の對象とすべく強力に主張して来た。

然しこの問題も國の政策と関係するもので今國会に提案されることになつている。

又私は市の発展を思う爲に公選市長としての今回の行政整理も泣いて馬しよくを切る心境であり、これによつて浮きる金額は少ないものであるが都市振興の財源として考えで居り、市の発展と市民の幸福を願う爲であり、行政整理に要する一時退職金等も、起債の對象となる事を自治廳理財課長は言明していた。

一万屯埠頭については非常に明るい見透しである。

海難防止懇談會

海上保安廳小名濱保安部の指導のもとに明二十六日小名浜地區（漁協組講堂）二十八日江名地區（漁協組事務所）二十九日中之作地區（漁協組事務所）の船主を對象に海難防止について種々懇談会が開かれる事になつている小名浜保安部よりは部長宮城氏他二、三名出席の予定である。

自由労組 夏季手當一千圓？

毎年の様に各方面では、それに暖かい手をさしのべる町の婦人達といつた自由労働組合の夏季手当三區）本町、横町、竹町をめぐつて論爭が激しく汐留（第四區）須賀町、具合の明暗二筋に今年の行われるものであるけれ西町、渚、高山、鹿島町自由労組は以外な程平穏ど、今年はデフレの激しな交渉をして居る。（第五区）第四區以西方磐城市内新、舊自由労組な嵐に企業倒産、自殺、部藤原川迄とし各区域内としては、新自労（組長炭砿の言語に絶する不況を主として海岸、公園、学校が休みになつて間が

子供の補導より 驚く大人の輕犯罪

磐城市福祉事務所では市内小、中學校生を對象として、去る二十三日午後二時から午後五時迄と午後七時から午後十時までと區分して（第一区）古港一圓（第二區）浜町、中通、中島、稼宿、諏訪町（第映画館等を對象として、各学校PTA委員、民生委員、保護司會、学校教員、嗣祉事務所職員、警察署員を入れた五班を作り、各地区の少年の街頭補導を行つた。

此の日の結果としては、当日にわか雨だつた事や學校が一齊に休みになつたので「かくれ休み」の様な怠業青少年の実態が握み得なかつた事とか、学校が休みになつて間が

夏季手當

その支給對象としては、七月十一日付で失業對策事業適格者であつて、七月中に十四日以上失業對策事業に就労した者を原則とするも、支給当日失月を通じて一〇日以上失唯当日係員をあわてさせた事としては、大人の自轉車の二人乘り、無燈火等が以外に多く實に六〇し公傷以外のものは認めない、支給日は八月一日から六日迄で約二〇〇名位であり、縣と市の支給金で一人一、〇〇〇円の夏季手當となる。

無いので、余り解放感が出ていないので、補導對象になる様な悪業をしていない等の理由で特別補導した少年達はいなかつた。

長瀬彰義氏 本社社長再任

本社では本日軍役改選後初の取締役會を開き社長其の他左の如く互選決定した。

社長 長瀬彰義（再）
常務取締役 荒川忠雄（新）

なお、新たに左の諸氏を相談役に推薦した。

日本水素小名浜工場長 大場圀雄
小名浜臨鉄社長 浦田文二郎
磐城市長 立花秀吉
縣議会議員 小野義一
（寫眞は長瀬社長）

保守新黨を望む

感情に支配される石城の政情

樫村清

棚ざらしの感あつた民主自由両保守政党の合同は自由、人權、民主々義、議會政治の擁護を根本の理念として「新党」が愈々発足の実現性が濃くなつて來た。誠に結構な事だ。

新黨の成否は政策でなく人だ、感情問題だ。

これを「石城地區」の政情から考いてみよう。結論的にいえば、保守政黨に属する人々は、この離合集散は主義政策によるのでなく、人と人のつながり結びつきによると極論されても止むを得ない立場にあるようだ。

過去の石城政治史がこれを証據立てている。

明治の末期まで國民党の絶對地盤であつた石城の地に、一大政變の生じたのは明治四十四年であつた。

時の國民党の大御所白井遠平氏一派が大擧脱黨して政府與黨である政友会に入党した。世人これらの人々を新政友と呼び、従来の政友會の人々を旧政友と呼んだ。

全じ政黨の人となりながらも感情的に對立し、金融機関すら平銀行（旧政友）磐城銀行（新政友）に分れて相反目をつづけた。

旧政友に属する人々は佐藤庄太郎、高岡唯一郎、山崎興三郎（先代）木村清治、關内正一となつて今日の所謂關内派をなし自由黨となつている。

これに反して新政友は白井博之、鈴木辰三郎、安目武之助、鈴木正男氏ら一派となり反関内としてら俺は政友會は止めた」と逆に國民黨に入黨し、今尚爭いを續け、身自由その後兩家が政友、民政黨にありながらも民主党と相分れて永く相爭つて來た事は世人周知の通りだ。

十年の歴史を綴つている政客の離合は全く感情に支配されると云つてもよく、現在の石城地區に於ても民主、自由と相分れ根據は少ないようだ。小会であつた鷺清吉氏（故縣議鷺清昇氏の父）が政異を棄てゝ大同に結構、地方でも區々なる感情に捉われず大同團結の精神でゆきたいものだ。特に自治体に於てその必要を痛感する。

この事例が示す如く地方感情のもつれはその儘五

天氣予報

（今晩）南の風くもり時々晴れですが一時にわか雨があるでしょう。
（明日）南よりの風晴れたりくもつたり一時にわか雨があるでしょう。
（明後日）南よりの風晴れ時々くもるでしょう。

暑中御見舞申上げます

磐城市議会 文教港湾委員 議会運営委員
齋藤誠吾

磐城市議会 総務副委員長 工場誘致委員
小林仁一郎

磐城市議会 水産商工副委員長 工場誘致委員
小林重三

磐城市議会 土木工場誘致委員 議会運営委員
菅原勳

磐城市議会 厚生農政委員 議会運営委員
秋山徹

磐城市議会 土木副委員長 水産商工委員
新妻長藏

暑気を吹き飛ばした
富士旗争奪剣道大會

港祭り協賛第五回富士旗一、小川三郎（日立）二〇庭球
争奪剣道大會が昨二十四、今川誠（日立）三、高
日午前九時より斯界の権萩茂雄、四、山崎末美（
威中山傳道範士等臨席の日立）五、左近司七郎
上小名浜第一小学校講堂
に於て行われた。
約千人の親衆の聲援のも
とに、華々しく展開され、伊藤重光
大觀衆のためさしもの講
堂も狹く、各劍道選手は
全身汗して奮戰、今夏の滿憲、三、新妻榮、四、
暑氣を吹き飛ばした。成江尻彦明
績は次の通り。

◎個人（小学生の部）
一、星野政勝、二、鈴木清七、三、宇佐見登、四
◎段外の部
一、榊原一枝、二、川村
◎四段以下の部
一、佐藤一郎、二、佐藤
◎五段の部
一、二瓶秀夫（小野町）
二、鎌田忠（平）三、佐藤傳一（日立）四、山本光司（日立）五、佐藤勇二
◎中學生の部
一、藤傳一（三和）
◎団体の部
一、縣劍友会平支部
二、同　常磐支部

○排球（女子）
(1)片倉製糸
(2)吳羽化學
(3)吳羽化成
○排球
(1)日本水素
(2)古河炭礦
(3)吳羽化学

柔道大会に
小名浜チーム優勝

磐城市港祭り協賛柔道大公開があり、呼び物の磐
會は昨二十四日午前十時城市地区別対抗試合は觀
より江名漁業組合魚市場衆の声援と拍手の裡に最
特設道場に於て行われた後の江名Bチームと小名
觀衆數千、主催の磐洋柔浜Aチームの決戰は江名
道会長志賀要平氏に代つ側の奮斗空しく凱歌は小
て友部智一六段が開會の名濱側に挙つた。優勝し
挨拶を述べ、來賓中田助た小名浜Aチームメンバ
役の祝詞について少年並ーは左の如くである。
に一般青年の紅白試合、小泉二段、柴田初段、鈴
赤津勝二五段と小野孝一木二段、小林二段、宮野
四段の講道館投げの形の三段

小名高勿来惜敗
県高校野球試合

全國高校選抜野球大會縣予選に出場した小名
浜高等學校は緒戰に會津高校を破り、第二戰
に東北工校を第三戰に石川高を撃破して優勝
目指して進んだが、本日双葉高校と對戰三對
二で惜敗した。
勿來高校も棚倉、若商を破ったが本日福島高
と對戰九A—三で敗退した。

中体連庭球試合
錦と平一中優勝

縣中學校体育連盟主催の三位　小名浜一中
石城地區大會庭球の部は優勝校の呼び名高かつた
昨二十四日午前八時半から昨年の覇者入遠野中は緒
勿來市錦町地區吳羽化戰で破れ、実力とみに充
實した錦中学校が三〇年
度の栄冠に輝いた。
ら勿來市錦町地區吳羽化戰で破れ、実力とみに充
實した錦中学校が三〇年
度の栄冠に輝いた。
火ぶたを切り、午後七時
三十分終了した。
大会成績は左の通り
▼男子の部
優勝　錦中學校
準優勝　植田中學校
三位　勿来一中
▼女子の部
優勝　平一中
準優勝　入遠野中學校

全勞体育大会予選
吳羽と水素勝つ

全國労働組合体育大會平
地區予選の排球、卓球、
庭球の三試合は昨二十四
日勿來市錦中学校々庭に
於て開催されたがその成
績は左の如くである。

○排球
(1)吳羽化學
(2)日本水素
○卓球
(1)日本水素
(2)同

小学生の
商港見学

石川郡平田村立永田小学
校生徒約百名は、明二十
六日正午より小名浜町魚
市場を始め商港を見学す
るため來浜する。

孝子ちゃん
井戸に転落

昨二十四日夕五時半頃磐
城市内大字田部字清水鈴
木秀美さん方の深さ約四
米の井戸に秀美さんの二
女孝子ちゃん（三つ）が
轉落、長女美千子ちゃん
（四つ）の知らせで母親
みすさんが駈けつけたが
手のほどこし様なく、救
いを求める大聲に附近の
畠地で農作業中の遠藤保
さん（三八才）が駈けつけ
井戸の中から孝子ちゃん
を救助し、人工呼吸、其
の他の應急處置を施し、
近くの診療所に運び込み
一命を取りとめた。

俳句

磐城　鈴木のぼる

明日よりはボートの番よ夏休
夏祭り巡視船を公開し
逢えるような氣がして夜店みに出づる
救難所双眼鏡に人泳ぐ
学生のキャンデー賣り屋今日も來し

運動用品のノエ

錦の青年学級

本二十五日夜七時半から
勿來町錦公民館で青年學
級を開く。
錦中學校村上教諭が講師
で課目は「數學」終つて
ダンス其の他レクリエー
ションを行う。

生徒の校外指導

磐城市大字林城部落では
夏休中の小、中學校生男
女計四十名の校外指導及
レクリエーションをかね
全部落PTA役員、長瀬
光三、永井敏夫、永井勝
治、佐藤芳雄さん等に引
率され、御代の大佛様の
見學を振り出に市役所、
警察署を見學し海水浴場
で樂しく遊び伸良く一日
を過ごした。

求女中さん優遇マーケット　ちろ里

哲男ちゃん
二階から転落即死

七月二十三日午後三時五
十分勿來市植田町金畑引
地みよさん長男哲男ちゃ
ん（三才）は母みよさん
と一諸に隣家の上田トヨ
さん方に遊びに行き、二
階の窓から轉落、頸首骨
折により即死した。

田島熊次郎翁逝去
漁業界の先覺者

小名浜機船底曳網漁業協
同組合長、本社監査役田
島繁夫氏厳父熊次郎翁（
七五）は、かねて病氣療
養中の處昨二十四日午前
十時逝去された。
葬儀は明二十六日午後二
時自宅で行われ、淨光院
に埋葬される。
翁は漁業界の先覺者で、
青年時代單身北海道に渡
航し、全地方の漁獲方法
等を研究して歸り、「山
マス」の船頭を振り出し
に〃ウタセ船〃漁業法を
改善して現在の底引漁業
法の先鞭をつけ、斯業の
發展に貢献した功績は偉
大である。
生涯を漁業に捧げ、山石
漁業部を創設して優秀船
二隻を建造、加工、製造
業も營み、今日の隆昌の
基礎を確立した人である

亡妻節子儀葬送に際しましては御多忙中にも拘らず遠路態々御会葬下され且つ御鄭重なる御香奠を賜り洵に有難く厚く御禮申上げます
実は一々拜趣の上御禮申上ぐべき處で御座いますが略儀ながら紙上を以つて御挨拶申上げます
昭和三十年七月二十五日
磐城市定西一四五
喪主　根本峯生
外　親戚一同

父熊次郎儀予てより病気療養中の処七月廿四日午前十時永眠致しました
茲に生前の御交誼を深謝し謹んで御通知申上げます
追て葬儀は七月廿六日午後二時自宅出棺淨光院にて相営みます
喪主　田島繁夫
外　親戚一同

当組合員**田島熊次郎殿**（組合長田島繁夫尊父）予て病気療養中の処藥石効なく昨廿四日午前十時長逝致されました此段謹んで御通知申上げます
追て葬式は七月廿六日午後二時淨光院にて相営まれます
昭和三十年七月二十五日
小名浜機船底曳網**漁業協同組合**

27日マデ
今日の映畫案内!!
総天然色
シネマスコープ
12哩の暗礁の下に
シネマスコープの特殊レンズは遂に千古の海底の神秘をとらえた！
ロバート・ワグナー
ラリイ・ムアー
同時上映雄こん大西部劇
アリゾナの決斗
ヴイクター・マチユア
金星座

電氣工事と照明器具
吉田電気工業所
磐城市中島通り
電話八〇八番

内科・外科・X線科
石井醫院
醫師　石井正三
〃　桑島昭
電話四七二番

海岸の売店を御利用下さい

新盆用品
佛壇位牌
岐阜提灯の御用命を承ります
磐城市字定西
本多造花店
電話543番

壽司
割烹
お座敷女中さん
二・三名至急求む
鮨雷
磐城市定西
電話一二番

經費をかけずに
良い品安く
是非御來店下さい
城磐市横町
小野屋吳服店
TEL 581